

No. 7

場 所	東中野三丁目(鉄道用地内)	樹 木 医		診 断 日	2025 年 11 月 6 日
樹 木 番 号	32	樹高(H)=7.0m	幹周(C)=248 cm	枝張(W)=2.5m	
樹種名	サクラ	植 栽 形 態	☐ 単独樹 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☒ その他		支 柱 ☐ 良好 ☒ なし ☐ 破損

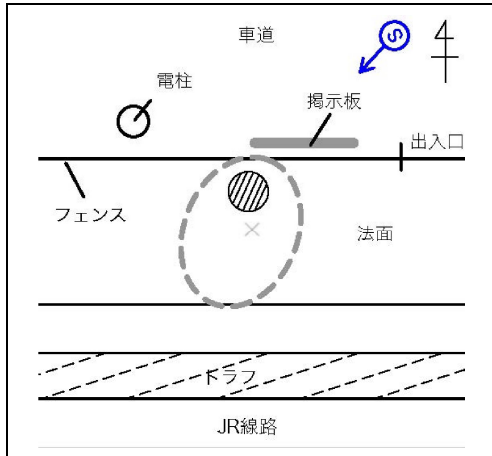
活 力 診 断	樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等		良 ← ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4 ☐ 5 → 不良		
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等		☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4 ☐ 5		
所見	樹勢：樹冠部が枯損している。 樹形：枝数が少ない。					
	活力判定	☐ 健全か健全に近い ☐ 注意すべき被害が見られる ☒ 著しい被害が見られる ☐ 不健全				
外 観 診 断	部 位 診 断	診断内容 \ 部位	根元	幹	骨格となる大枝	
		樹皮枯死・欠損・腐朽 (周囲長比率)	☐ なし ☐ 1/3 未満 ☒ 1/3 以上	☐ なし ☐ 1/3 未満 ☒ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
		芯に達していない開口空洞 (周囲長比率)	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
		芯に達した開口空洞 (周囲長比率)	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
		上記3項目のうち 最大被害部の周囲長比率	被害部幅 155 / 被害部周囲長 250 = 周囲長比率 62.0%	被害部幅 155 / 被害部周囲長 250 = 周囲長比率 62.0%	枯枝 スツガット ☐ なし ☒ あり(φ40cm 44.0m) ☐ なし ☒ あり(切除可)	
		キノコ(子実体)	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		木槌打診(異常音)	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		分岐部・付根の異常	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		胴枯れなどの病害	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		虫穴・虫フン、ヤニ	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		根元の揺らぎ	☒ なし ☐ あり()	建築限界越え 車道側	建築限界越え 歩道側	
		鋼棒貫入異常	☒ なし ☐ あり()	幹 ☒ なし ☐ あり	幹 ☒ なし ☐ あり	
		巻き根	☒ なし ☐ あり()	()	()	
		ルートカラー	☒ 見える ☐ 見えない()	()	()	
		露出根被害	☒ なし ☐ あり()	枝 ☒ なし ☐ あり	枝 ☒ なし ☐ あり	
		不自然な傾斜	☒ なし ☐ あり()	()	()	
		所見	根元から幹の樹皮枯死・腐朽(甚大)あり。 切残し剪定(切除可・大)あり。 ひこばえあり。 枯枝(主幹頂部枯損・大)あり。 枯枝(衰弱枝・大)あり。 要機器診断(根株)。			
		部 位 判 定	判定・処置 \ 部位	根元	幹	骨格となる大枝
			健全か健全に近い	☐	☐	☐
	注意すべき被害が見られる		☐	☐	☐	
著しい被害が見られる	☐		☐	☒		
不健全	☒		☒	☐		
処 置	剪定が必要	☐	☐	☐		
	機器診断が必要	☒	☐	☐		
外観診断 判定	☐ A：健全か健全に近い ☐ B1：注意すべき被害が見られる ☐ B2：著しい被害が見られる ☒ C：不健全					
判定 理由	不健全。根元から幹にかけての樹皮枯死・腐朽の被害が甚大であり、地上部の大部分が枯死しているため、回復の見込みがない。					

機 器 診 断	測定データ 1	部位(根株)	腐朽空洞率： 60.8 %	t/R 率 ① 0.000 ② 0.079 ③ 0.852 ④ 0.000
	測定データ 2	部位()	腐朽空洞率： %	t/R 率 ① ② ③ ④
	所見	〈根株診断〉 根株に非常に大きな腐朽空洞が認められる。特に①②④方向では、腐朽空洞化の進行により、健全材が薄くなっている。		

総合判定	☐ A：健全か健全に近い ☐ B1：注意すべき被害が見られる ☐ B2：著しい被害が見られる ☒ C：不健全
判定理由	不健全。根元から幹にかけての樹皮枯死・腐朽の被害が甚大であり、地上部の大部分が枯死しているため、回復の見込みがない。 機器診断の結果、根株に非常に大きな腐朽空洞が確認された。特に①②④方向では、腐朽空洞化の進行により、健全材が薄くなっている。 倒伏の危険性が高く、回復の見込みがないため、伐採を要する。

No. 7

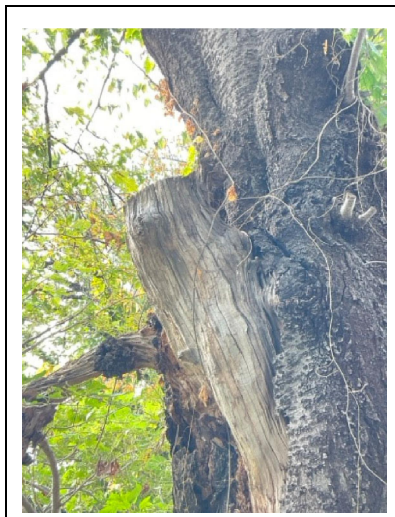
処置 内容	必要性	☐ なし	☒ あり	緊急性	☒ なし	☐ あり
	☐ 要観察(長期周期)		☐ 要観察(短期周期)			
	☐ 剪定(枯枝)	☐ 腐朽枝等	☐ 支障枝	☐ 風圧軽減	☐ スタブカット	☐ 巻き根
	☐ 樹体保護()		☐ 植栽基盤の改善()			
	☐ 根上がり()		☐ 病虫害防除()			
	☒ 更新(撤去・植替えを要する。)		☐ その他()			
摘要	倒伏の危険性が高く、回復の見込みがないため、伐採を要する。					



診断概要図



①根元から幹の樹皮枯死・腐朽



②切残し剪定(切除可)

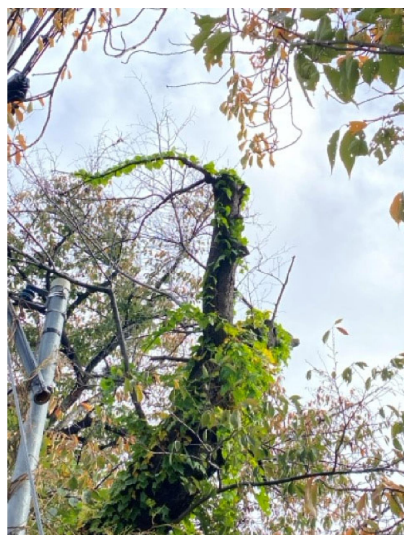


③ひこばえ

その他特記事項

次回診断	☐ フォローアップ診断(☐ 要機器診断 測定部位:)		☐ 外観診断
次回診断時期	☐ 1年後 ☐ 2年後 ☐ 3年後 (年度)		
位置座標(WGS84)	緯度 35.706277		経度 139.680323

樹木番号:32



④ 枯枝(主幹頂部枯損)



⑤ 枯枝(衰弱枝)
